

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「海老を拝む」

新しい年が始まりました！今年もよろしくお願ひいたします。

さて、お正月の鏡餅、一般的には二つ重ねの餅の上に、橙やお飾り用の小蜜柑を飾ります。では、ここに海老を飾るか否か?!「なに？海老なんて飾るの見たことねえ」と海老無し派。「海老がなけりゃめでたくない」と海老派。昨今は瀬戸物か樹脂の合成餅や、あらかじめセットされたものも市販されていますが、海老を飾るかどうかは地域や家庭で大きく分かれるところですよ。

この海老が伊勢海老であることから「伊勢神社系」を信仰する地域で祭るとの説もありますが、詳しいことは分かっていません。調べたところ県内では、おおむね海岸部が海老を飾るようです。実際筆者の家では海老派で、祖母が女学校で作ったという絹の絞り細工の伊勢海老を飾っています。県内の海岸部や佐渡では、お飾りや神棚に半紙に切り紙細工を施した「下げ紙」を飾りますが、下げ紙の模様は大漁を祈願してめでたい恵比寿様、海老は恵比寿にも通じることからも下げ紙に表したとも考えられます。

実は海老で「あきや！どうしょば」な出来事がありました。バスの中で外国人に、にわかガイドをするはめになったのです。信濃川を指さし、「コレハ海カ?」「何が獲レル?」鉛色の空を見上げ「雪ハ多イカ?」等々、ここまでは何とか会話が成立しました。その後、新潟市の人口やら歴史を聞かれ、新潟弁ならいざ知らず、ボディ・ランゲージでは心もとなくなってきたところ、「近クニ日本のナ物、有ルカ?」と聞いてきました。これ幸いと、「次の停留所降りると神社がある。日本には神道があり神社

がある、新年は多くの日本人が参拝する、新潟には日本一神社がある」旨を伝えました。「Oh!ワンダフル!」と大喜びで下車し、車外でニコニコ手を振る彼ら。「やれやれ、よかった、よかった」日本語ワールドに戻る私もニコニコ!

しかし、後からとんでもないことに気付いたので。神社（シュライン）のつもりで、シュリンと言ってしまったことに!シュリンでは、彼らにはシュリンプ（小海老）と聞こえたに違いありません。そういえば、やけにシュリンを連発して感嘆してたな。あきや!と思ったところでもう遅い。彼らは、神社に行き小海老を探し、神官に海老はどこか?と聞いたとしたら…。それよりなにより、ニイガタのゴッドは海老だ!と母国で吹聴したら?どこかで海老付き鏡餅に遭遇し、伊勢海老と小海老、形こそ違えども海老は海老、「Oh!ジャパニーズゴッド!」と拝んだとしたら…。それこそ「どうしょば、Oh my God!」です。

海老を見るたび私も拝んでしまいそうですが、実は県の名物南蛮海老の水揚げは全国3位、消費量は石川と上位を争うナンバー2!まさに新潟にとって海老は味覚の王様、神様といえましょう。ということで、今年も新潟の楽しい話や味な話をお届けします!

